



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月10日

上場会社名 株式会社 エスライン
 コード番号 9078 URL <http://sline.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山口 嘉彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 白木 武

TEL 058- 245- 3131

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	37,461	0.1	859	45.7	926	43.4	510	38.2
2019年3月期第3四半期	37,486	5.7	1,583	33.3	1,637	32.6	826	2.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 534百万円 (43.9%) 2019年3月期第3四半期 951百万円 (6.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	46.55	
2019年3月期第3四半期	74.87	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	36,857	21,189	57.5
2019年3月期	36,678	21,108	57.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 21,189百万円 2019年3月期 21,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		18.00	18.00
2020年3月期		8.00			
2020年3月期(予想)				10.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	3.8	1,550	8.2	1,600	8.9	980	1.1	88.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	11,095,203 株	2019年3月期	11,095,203 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期3Q	253,438 株	2019年3月期	63,446 株
------------	-----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	10,965,072 株	2019年3月期3Q	11,031,790 株
------------	--------------	------------	--------------

当社は、株式給付信託(BBT)を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数および期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境の改善や堅調な企業業績を背景に、景気は緩やかな回復基調にあるものの、消費増税による消費マインドの冷え込み懸念や長期化する米中間および日韓間の経済摩擦や中東情勢の緊迫化が世界経済へ与える影響等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、ドライバーを中心とした労働力不足を補完するための備車費や外部委託費の増加、原油価格の不安定な状況が懸念される等、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、本年度を初年度とする中期経営計画（スローガン：「エスラインブランドの価値向上 “Think next Value”」）の経営目標の達成と企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、営業収益374億61百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益8億59百万円（前年同期比45.7%減）、経常利益9億26百万円（前年同期比43.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億10百万円（前年同期比38.2%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[物流関連事業]

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。

トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、運賃改定や諸料金の収受に向けた営業活動を引き続き進めるとともに、新規取引先の開拓にも取り組んでまいりました。その結果、運賃単価は上昇傾向にあるものの、大型連休が長期化したことによる営業日数の減少や当第3四半期におきましては、暖冬や消費増税による消費マインドの冷え込み等の影響もあり、今期の貨物輸送量は前年を大きく下回る結果となり、減収となりました。

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、飲料、自動車関連部品、一般雑貨商品、夏冬タイヤの保管業務に加え、昨年5月に新築した㈱エスライン郡上の移動ラック式定温管理倉庫での医薬部外品の保管業務や、昨年10月に新築した㈱エスラインギフの飲料保管自動倉庫での保管業務が稼動し、増収に寄与いたしました。この飲料保管自動倉庫は「自動ラックシステム」を導入した中部地区最大級の規模で、「省人化」と「安全」を追求した最先端の物流倉庫であります。しかしながら、当第3四半期に入り、主に量販店向け衣料品関連商品の加工業務の減少等により、加工収入が減収となり、計画していた収入には至りませんでした。

大型貨物の個人宅配や引越しを行うホームサービス部門では、お取引のある家電量販店様の洗濯機・冷蔵庫といった白物家電の販売好調に加え、消費増税前の駆け込み需要による販売増加もあり、配送および設置業務が大幅に増加しましたが、昨年11月以降は増税前の駆け込み需要の反動を受け、家電量販店の販売は減少し、配送・設置業務も減少したことにより、当第3四半期の家電収入は減収となりました。

また、引越しサービスについては、「スワロー引越便」のPR活動の効果や、これまでの引越実績の評価等により、特に法人関係の引越受注が増加しました。これらの結果、ホームサービス部門は増収となりました。

以上の結果、物流関連事業全体では、わずかながら減収となりました。

一方、利益面では、貨物輸送量が減少したものの、慢性的な労働力、特にドライバー不足や、休日の配送業務に対応するための備車費・外部委託費が増加したことにより減益となりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は368億28百万円（前年同期比0.1%減）、セグメント利益（営業利益）は11億2百万円（前年同期比40.1%減）となりました。

[不動産関連事業]

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。昨年6月より㈱エスラインギフの旧西淀川支店（大阪市西淀川区）の跡地の賃貸や、一部賃貸物件の賃料を改定したことにより、増収となりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は3億74百万円（前年同期比7.2%増）、セグメント利益（営業利益）は1億79百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

[その他]

その他事業におきましては、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、岐阜市内の高校や近隣の大学の通学バスや冠婚葬祭時の送迎バス等、地元に着した運行業務に取り組んでまいりました。

また、売電事業におきましては、㈱エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび㈱スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。(総発電量1,333.96kW)

この結果、その他事業の営業収益は2億58百万円(前年同期比4.4%減)、セグメント利益(営業利益)は49百万円(前年同期比2.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の連結資産合計は368億57百万円となり、前連結会計年度末比1億78百万円増加しております。この主な要因は、有形固定資産の増加と現金及び預金の減少によるものであります。

また、連結負債合計は156億67百万円となり、前連結会計年度末比97百万円増加しております。この主な要因は、借入金の増加によるものであります。

連結純資産合計は211億89百万円となり、前連結会計年度末比80百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月1日に公表いたしました通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。なお、実際の業績につきましては、今後の様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,740	3,455
受取手形及び営業未収入金	6,031	6,036
貯蔵品	92	90
その他	600	760
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	11,464	10,343
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,581	9,704
機械装置及び運搬具(純額)	2,162	2,531
土地	10,813	10,923
リース資産(純額)	129	131
建設仮勘定	822	574
その他(純額)	175	172
有形固定資産合計	22,685	24,039
無形固定資産	97	116
投資その他の資産		
投資有価証券	1,354	1,365
退職給付に係る資産	52	52
繰延税金資産	158	155
その他	873	794
貸倒引当金	△8	△9
投資その他の資産合計	2,430	2,357
固定資産合計	25,214	26,513
資産合計	36,678	36,857

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	5,255	5,374
短期借入金	330	320
1年内返済予定の長期借入金	1,052	1,271
未払法人税等	340	95
賞与引当金	477	155
役員賞与引当金	46	26
設備関係支払手形	4	—
その他	902	1,245
流動負債合計	8,409	8,489
固定負債		
長期借入金	2,040	2,109
繰延税金負債	1,352	1,356
役員退職慰労引当金	108	74
役員株式給付引当金	24	36
退職給付に係る負債	2,797	2,766
資産除去債務	498	501
その他	337	333
固定負債合計	7,160	7,178
負債合計	15,570	15,667
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,237	2,237
資本剰余金	2,946	2,946
利益剰余金	15,746	15,969
自己株式	△77	△243
株主資本合計	20,853	20,911
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	378	391
退職給付に係る調整累計額	△123	△112
その他の包括利益累計額合計	254	278
純資産合計	21,108	21,189
負債純資産合計	36,678	36,857

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業収益	37,486	37,461
営業原価	34,602	35,318
営業総利益	2,883	2,142
販売費及び一般管理費	1,300	1,282
営業利益	1,583	859
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	26	26
受取賃貸料	20	20
その他	34	40
営業外収益合計	80	88
営業外費用		
支払利息	6	6
売上割引	2	2
債権売却損	12	12
持分法による投資損失	5	0
その他	0	0
営業外費用合計	27	21
経常利益	1,637	926
特別利益		
固定資産売却益	22	26
その他	0	0
特別利益合計	22	26
特別損失		
固定資産除売却損	50	138
投資有価証券評価損	200	—
減損損失	—	8
特別損失合計	250	146
税金等調整前四半期純利益	1,409	806
法人税等	583	295
四半期純利益	826	510
親会社株主に帰属する四半期純利益	826	510

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	826	510
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	104	12
退職給付に係る調整額	21	10
その他の包括利益合計	125	23
四半期包括利益	951	534
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	951	534

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	36,867	348	37,215	270	37,486	—	37,486
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	36,867	348	37,215	270	37,486	—	37,486
セグメント利益	1,840	172	2,012	50	2,063	△479	1,583

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バス事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△479百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	36,828	374	37,202	258	37,461	—	37,461
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	36,828	374	37,202	258	37,461	—	37,461
セグメント利益	1,102	179	1,281	49	1,331	△471	859

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バス事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△471百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および(株)エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。